

稲作だより 第2号

令和8年8月6日発行
福岡市農業指導センター

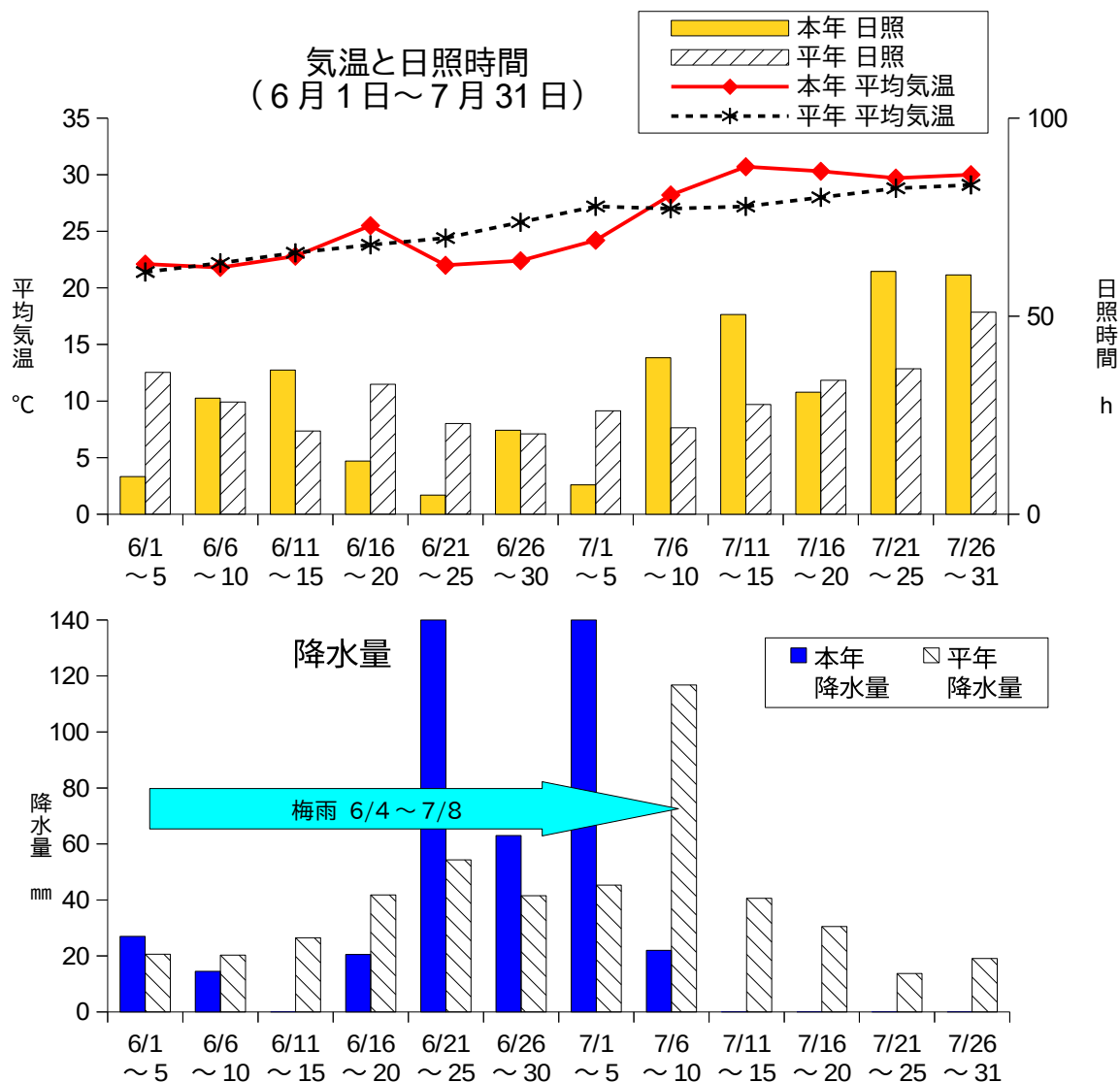
北部九州の梅雨明けは、平年より11日早い7月8日頃となりました。7月は晴天が続き高温少雨で推移したことから一部地域では水不足が懸念されます。今回の稲作だよりでは、出穂期前後の管理と収穫適期等についてお知らせいたします。

1. 気象及び生育概況

- ・気象概況 7月に入り猛暑日が続き降水量が減少しています。
- ・早期水稻 概ね生育順調で間もなく収穫期を迎えます。
- ・普通期水稻 ジャンボタニシによる食害、水田雑草の発生が一部で見られるものの概ね順調に推移しています。



	6月1日～7月31日（観測地点：前原）				
	平均気温（℃）	最高気温（℃）	最低気温（℃）	降水量（mm）	日照時間（h）
令和8年	25.9	30.4	22.4	538.5	364.4
平年値	25.7	30.0	22.2	470.9	358.1
平年差	+ 0.2	+ 0.4	+ 0.2	+67.6	+ 6.3



2. 水管理

1) 出穂期前後の水管理

最も水が必要な時期です。出穂前後 1 週間は浅水管理を徹底しましょう。

2) 出穂 1 週間後から収穫期まで

早期の落水は行わず、可能な限り収穫間際まで間断灌水を行いましょう。

3) 台風対策

脱水・倒伏を防ぐため可能な限り深水管理を行い、台風通過 3～4 日後に水を入れ替え、間断かん水を行いましょう。

3. 出穂期及び収穫適期予測

高温の影響から、**出穂期・収穫期が平年に比べ数日早まる傾向**があります。今後も高温が続くことが予想されますので、生育状況を注意深く観察してください。

1) 早期 恵つくし・夢つくし (5/20 植えまで)

8月 20日頃が収穫適期見込です。

2) 普通期水稻

恵つくし・夢つくし・元気つくしの収穫適期は下表のとおりです。

	恵つくし	夢つくし	元気つくし	ヒノヒカリ	実りつくし	ヒヨクモチ	笑みたわわ
田植え日	6 / 1	6 / 1	6 / 10	6 / 10	6 / 20	6 / 20	6 / 20
	6 / 10	6 / 10	6 / 20	6 / 20			
出穂期 予測	8 / 7 頃	8 / 2 頃	8 / 12 頃	8 / 22 頃	8 / 30 頃	9 / 2 頃	8 / 22 頃
	8 / 12 頃	8 / 7 頃	8 / 17 頃	8 / 25 頃			
収穫適期 予測	9 / 8 頃	9 / 5 頃	9 / 18 頃				
	9 / 14 頃	9 / 10 頃	9 / 24 頃				

ヒノヒカリ以降の収穫期は
次号でお知らせします！



4. 病害虫の発生状況と対策

1) トビイロウンカ

7月下旬の調査では、**発生は少ない状況**ですが、1株あたり1頭以上の発生がある場合は防除を検討しましょう。

防除適期は、8月下旬です。今後も注意深く観察して発生情報を確認してください。

令和2年は7月下旬に10株あたり1～2頭の発生が見られ、収穫期直前に大発生して大きな被害をもたらしました。今年も引き続き注意しましょう！



【トビイロウンカ】



【イネカメムシ】



【斑点米カメムシ】



2) イネカメムシ

近年、福岡県下で被害が拡大しているカメムシの一種です。

主に出穂期～穂揃い期に籾の基部を吸汁することから不稔の原因となり、大量発生すると大きな被害をもたらす恐れがあります。防除適期は、出穂期直前（穂の出始め頃）です。

8月上旬の調査では、発生が確認されています。今後も注意深く観察して発生情報を確認してください。

3) 斑点米カメムシ

現状、福岡市の田んぼでの**発生は少ない状況**ですが県内では多い状況です（福岡県病害虫防除所より）。出穂10日前までは、こまめな草刈を行いましょう。防除適期は、出穂期から14日後頃です。

4) コブノメイガ

例年に比べると発生が多く一部の田んぼで食害は見られますが、収量への影響は殆どないことから、防除は不要です。

5) いもち病

全体的に**発生が目立つ状況**です、特に田面が乾燥していた田んぼで発生が見られます。上位葉に発生がある場合は「穂いもち」に進行する恐れがあります。防除が必要な場合は、出穂直前（ジャンボ剤は5日前まで）に行いましょう。「穂いもち」に進行してからの防除は効果が劣ります。

【葉いもち病】



【紋枯病】



6) 紋枯病

現状の発生は少ない状況です。高温時に発病が増える傾向にあり、昨年は8月末から多発しましたので注意してください。

5. 収穫期・収穫時の留意事項

下記の条件の場合、農産物検査において等級格下げの原因となります。

1) 胴割れ（立毛胴割れ）

早期落水や刈り遅れの場合に、立毛の状態で胴割れが発生します。特に高温年の刈り遅れは発生が多くなります。可能な限り収穫間際まで間断灌水を行いましょう。

2) ヤケ米

収穫した籾を長時間、炎天下にさらしたり、コンバイン袋に入れて放置しているとヤケ米が発生します。収穫後は出来るだけ速やかに乾燥機に入れ送風にしましょう。

3) 稲こうじ病

稲こうじ病菌の損傷を受けたものは「規格外」となります。発生が多い田んぼの収穫乾燥は別に行いましょう。

4) 雑草種子

雑草種子の混入は、等級格下げ（殆どの場合が規格外）になります。色彩選別機でも完全に除去するのは困難ですので、種子が落ちる前に抜き取りましょう。

【胴割れ米】



【稲こうじ病】



【クサネム】



【ナガボノウルシ】



6. 熱中症対策について

1) 農作業は涼しい時間帯に

気温が上がる日中の時間帯を避け、**朝夕中心**に作業を行い、つば付きの帽子や通気性の良い作業着・冷感ウェアを着用しましょう。

2) 水分・塩分補給

喉が渇く前に、**こまめに水分補給**を。また、汗と一緒に塩分が失われるので**スポーツドリンクや塩飴**などを利用して塩分を補給しましょう。

3) こまめな休憩

30分に1回を目安に、日陰や風通しの良い涼しい場所で休憩しましょう。



稲の生育・病虫害発生状況は圃場毎に異なります。十分に観察を行い状態を把握しましょう。今後の情報については、引き続き「稲作だより3号」「携帯版稲作情報」でお知らせします。暑い日が続きます、熱中症に十分注意してください。